



さらなる高みへ
一点突破

東稜NEWS

第60号 文部科学大臣賞特別号
令和4年3月24日発行
発行者 編集
熊本県立東稜高等学校
研究企画兼情報管理部
〒862-0933
熊本市東区小峯4丁目5-10
Tel 096-369-1008
https://sh.higo.ed.jp/touryo/



祝 文部科学大臣賞

第17回IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」2021 学校活動事例部門 「スマホ利用適正化に関する校内啓発活動」 (主催)独立行政法人情報処理推進機構(後援)サイバーセキュリティ戦略本部、警察庁、文部科学省、経済産業省他



記念撮影(中央:IPA理事長富田達夫氏)



令和4年1月13日(木)、独立行政法人情報処理推進機構(以下、IPA)主催の第17回IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」の表彰式をオンラインで開催しました。学校活動事例部門で本校の「スマホ利用適正化に関する活動」が文部科学大臣賞を受賞、また4コマ漫画部門では蒼さん(1-1)の作品が優秀賞を受賞しました。IPA理事長の富田達夫様とつなぎ、その様子は校内の全教室でも配信、1・2年生が視聴をしました。

本校の風紀委員会を中心とした“スマホダイエット”の取り組みが評価され、各種委員会(図書委員会・保健委員会)の代表生徒も参加し、学校代表として生徒会長の森元君(2-4)が賞状を授与されました。

▼IPA理事長富田達夫氏による講評



授賞式のあと、IPA理事長富田達夫氏と本校代表生徒・職員が意見交換会を行いました。生徒全員が取り組んでいる“スマホダイエット”に関する話題から日常の情報モラル・サイバー犯罪まで幅広いテーマでお話をいただき、生徒にとって多くの学びがある貴重な時間となりました。【詳しくは裏面】

デジタル機器が身の回りに多くある環境において、ひとりひとりが「デジタル機器につかわれる」のではなく、「デジタル機器をつかう」人材になれるようスマホ利用適正化に関する取り組みを一層深めていくことを決意しました。

▼教室で表彰式を視聴する様子



スマホダイエットって?

本校が令和元年度3学期から始めた風紀委員会を中心としたスマホ利用適正化に関する啓発活動で、スマートフォンの利用について自分自身でコントロールできるようになるという取り組み。風紀委員は別名、スマホ利用適正化委員会という名も持っている。“スマホ断食”から由来しているが、このご時世、断食は難しいので、ダイエットという名称にし、いつでもどこでもだれでも(ユビキタスネットワーク社会のように)取り組める活動を推進している。現在は各学期末、定期考査前の年3回呼びかけており、図書委員会や保健委員会もスマホに関する書籍を展示したり、健康被害についてまとめるなどの活動を展開している。

活動の様子

▼風紀委員会 鮫島さんによる放送での呼びかけ



▼図書委員会 関連書籍の展示・通信発行



▼風紀委員会 教室での呼びかけ



▼保健委員会 スマホ依存チェックや健康被害に関する分析



IPA理事長 富田達夫様から講評(要約)

受賞されました熊本県立東稜高等学校の皆さんおめでとうございます。また、4コマ漫画で熊本県警察本部から優秀賞を受賞されました荅さんおめでとうございます。(中略)優れた活動事例を紹介いただいた学校の中で、最も優れたものを毎年文部科学大臣名で表彰させていただくことを行っております。(中略)皆さん一人一人が受賞されたと考えていただいてよいと思います。大変誇りにしてよい受賞だと思っております。皆さんがスマホの使い方やネット依存の問題をみんなと一緒に取り組んでおられることは大変大切なことでありまた素晴らしいことだと思っております。世の中を見渡しますと大人たちでさえ歩きスマホや入浴スマホさらには自転車スマホなど四六時中手放せない人を数多く見受けまます。精神面でも問題が多いことは皆さんもすでに学習されていることと思います。

✔️ スマホは使うものであり、スマホに使われるものではない

スマホは便利ですが、使うものであって、使われるものではありません。人は皆ひとりひとり、自分の人生を自分らしく生きていくために学び、活動し、人と交流して生きていきます。その活動を便利にしてくれるものの一つとしてスマホがあります。



✔️ 五感を使ったコミュニケーションを心がけること

本来コミュニケーションというものは、体の五感を使ってするものです。口から発せられて言葉は、相手にどんな影響を与えるのか、五感を通じて感じ取っています。だから間違っ、不愉快にさせることを言ってしまうたり、自分がそのつもりでないのに、不愉快にさせてしまったときにその場ですぐに訂正もできます。



✔️ スマホに時間を奪われるな

コロナによってあることを制限されたときや緊急の時はスマホで連絡を取ることができることは大変便利です。しかし明日になれば会って話せることを夜まで自分の大切な時間を割いてまで、メールし合ったり、或いはチャットしたりすることは、スマホを使っているのではなく、スマホに使われているといってもいいでしょう。

そういう意味で、スマホダイエットという試みは本当に素晴らしいことです。スマホの時間を自分自身の意思でコントロールできるということがスマホを使っているということです。本当は読みたい本があったのに、スマホでメールをしたり、SNSでチャットをしたりしているうちにいつの間にか時間がたってしまう、なんとなく一日が終わってしまったとか、気づいたら深夜で寝る時間を減らした等ということをしていては、自分の意思でスマホをコントロールできていないということで、それはまさしくスマホに使われているということになります。



皆さんの活動は素晴らしいことで、是非ご家族にも広げていただきたい。学校を卒業した後も、大人になってからもスマホを使えること、スマホに使われないことを誇りにして頑張りたい、そんな風に皆さんの活動を聞いて思った次第です。

✔️ スマホを正しく扱い、よりよい人生を

新型コロナは感染力が強いオミクロン株が出てきて、感染者数がどんどん増えてきています。こういう時だからこそスマホが必要となるときもある。本当に必要となるときに、正しく使えるということが大切なのだと思います。学生時代の友人関係というのは、人生においていつまでも大切にしたい宝です。本当に親しい友人を作る、濃い人間関係を築くためには、うわべの会話ではなく、リアルな会話が大切だということをお伝えして、私の話を終わりにしたいと思います。本日は誠にありがとうございました。



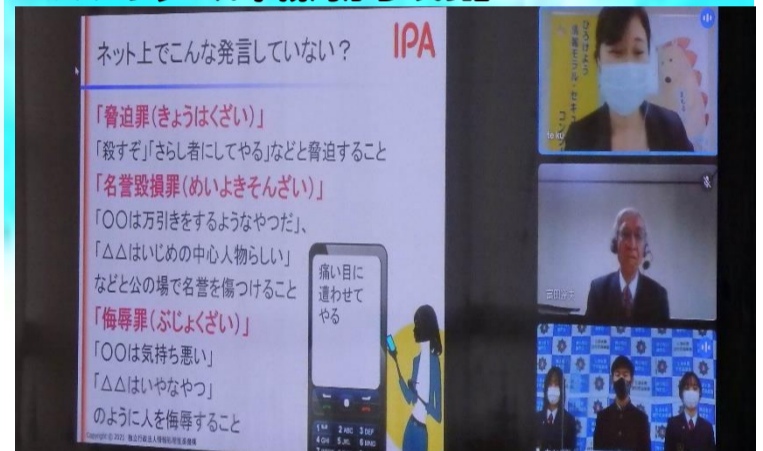
▼IPA理事長富田達夫氏による講評



▼オンラインでの情報交換会に参加する生徒



▼IPAコンクール事務局からのお話



パソコン部 くまもとICTコンテスト 優秀賞受賞!

部長の椎名さん(2年、南小国中出身)を中心とするアプリのデザイン・開発が「令和3年度くまもとICTコンテスト」で優秀賞を受賞しました。昨年度はコロナ禍でコンテストが開催されませんでした。数年ぶりの受賞となります。

パソコン部は他にも部活動紹介の動画制作を行ったりワープロ検定試験にも取り組んでいます。

熊本版「ぷよぷよ」作りました♪

「県の特産品をモチーフにした知的パズルゲーム『ぷよぷよ』の「熊本版を考えた」という田中さん(2年、出水中出身)。『ぷよぷよ』の画面の中では、県産のスイカやトマト、苺、晩白柚が落下してくる。他にも「くまモン」が落下してくるバージョンも制作した。地域の寺子屋に通い、プログラミングを学び、アイデアを形にしている。ブラウザ上で開発しているので、一人一台端末でも実行可能。

本校の教科「情報」では、Webページに知識であるHTMLやCSS、プログラミング言語Python等を学ぶことができます。

